

お悔やみ申し上げます

冬の訪れと共に銀杏の木も

たくさんの葉や実を落とし始まりました。

路地は辺り一面黄色にそまり、

道行く人に踏まれた銀杏の香りが

香ばしい今日この頃かと存じます。

私事ではございますが今年のクリスマスにと、

彼女が出来た次第でございます。

あなた様にまだ彼女がいないことは、

風の便りで存じ上げております。

心から深くお悔やみ申し上げると共に、

このクリスマス中見舞いがあなた様の

気休めになることを切に願っております。

赤鼻のトナカイ

明日はクリスマスです。トナカイのベルは初めてサンタのそり引きを任されました。倉庫には、明日子供たちにわたす予定のプレゼントがいっぱいです。ベルはサンタに言われました。

『このプレゼントは、子供たちが待ちわびているもの。絶対になくしたり開けたりしてはいけませんよ。』

ベルは自慢の黒い鼻を、ふふん、と鳴らして言いました。

『任せてください！』

ベルはその夜、倉庫でプレゼントの番をすることになりました。サンタはもう、眠りについています。ベルは思いました。

（僕もこんなプレゼントがほしいなあ。）

ベルは一つのプレゼントに近づきました。なんだかいいにおいのする包み。

（においを嗅ぐぐらい、いいよね？）

ベルは包みに鼻を近づけました。

くんくん、くんくん。

（何が入っているんだろう？ちよっとぐらい、開けてもいいよね？）
ベルはそーっと包みを開きました。すると…

『あっ！イタイッ！』

なんとそれは、くまさんにあげるはずの蜂の巣だったのです。ベルの鼻はばんばんに腫れ上がり、真っ赤になりました。ベルは泣きながらサンタのところへ行きました。サンタは言いました。

『約束を守らないと、こういふことになるんだよ。』

それからベルの鼻が元の黒色に戻ることはありませんでした。

クリスマスは今年もやってくる

ついにこの日がやってきた。十二月二十四日、クリスマス・イブ。どれだけこの日を待ちわびたことか……。やつと……。やつとできる。

サンタの格好でケーキ屋のバイトが。

普段している塾のバイト先に、二十四、二十五日に斜線を引いたシフト表を出したのは一ヶ月前。もちろん、その日の予定は初めから決めていた。サンタになろう、と。

勤務先に選んだのは渋谷にあるケーキ屋。カップルで溢れかえっているこの街で、カップルにケーキを売り続ける。サンタの格好で。独り身の俺が。カップルにケーキを売り続ける。アウトロー！

最初はなかなか楽しかった。サンタの格好をして、愛想よく笑って、ありがとうごさいしました！とかなんか言ったりしてさ。いやでもね、バイトする前からうすうす気づいてたけどさ、なんかね、まあ、その、ねえ……。やっぱ、なんかやるせなくなっちゃって、そしたらなんか目の前のカップルが急に腹立たしく見えてきちゃって、「このケーキに乗ってるサンタかーわーいーいー！」とか言ってるのがどうしても許せなくて、そしたらそのカップルの買ったケーキの箱が俺の手元に来ちゃって、そんでもってちよつと悪魔がささやいたらさ、やっちゃうよね。箱揺らし。

サンタが倒れて顔がクリームまみれになってしまえ！

そんなこんなでちよつと清々しい気持ちになりながら、ケーキ屋のバイトは終わった。帰るときに売れ残ったケーキを一つ買った。バイト中はなんとなく電源を切っておいた携帯。なんとなく今日は電源を入れるのをやめておこう。……。別に現実逃避したわけじゃないから。ただちよつと、センチな気分になったかったのさ。

家に帰って真っ暗な部屋の電気をつける。荷物を置いて、さっそくケーキの箱を開ける。サンタがクリームの海にダイビング。

あのカップル、どうしてるかなあ……。

そんなことを考えながら、サンタを海から救出し、そのまま頭をパクツと一口。

——甘っ。

そんな感じで過ぎてゆく、十二月二十四日の午後十時。

——明日は昼過ぎに起きようかなあ……。

クリスマス特番を見ながらそう思った、十二月二十四日の午後十時。

クリスマスの東京タワーはね、8時になるとライトアップが消えるんだって。その瞬間を2人で見た恋人たちはね、永遠に幸せになれるんだって。

それは、いつまでもそこの。

「久しぶりやな。」

芝公園駅の改札に、彼は立っていた。本当に、今ここに彼がいるんだ。それにちよつとびっくりした。「そうですね、いつ以来ですか？」

久しぶりに見た彼は、前に会ったときよりやつれて見えた。

クリスマスに仕事で東京に行くんや、と電話先で彼は言った。私は、じゃあ、と切り出した。

「東京タワーに行きませんか？」

「なんで東京タワーに行きたいん？」

【今、クリスマス仕様のライトアップが凄く綺麗らしいんですよ。あそこなら仕事先から近いですし。田舎から出てきて連れ回しちゃうのも気が引けますから。】

【・・・じゃあ、行くか。東京タワー。】

ほんと、東京タワーのライトダウンを見たいだけだった。あんな噂、最近初めて聞いたし、科学的でもなんでもないけど、・・・不安だったから。

ふたりで東京タワーから何処まででも明るい東京の街を見つめていた。特に今はクリスマスだから、イルミネーションが多いのだろう。会話が途切れ、少し無言になったとき、突然彼が切り出した。

「・・・別れやんか？」

その瞬間、ちょうど8時になって、東京タワーの明かりが消えた。

十 十

「・・・8時、か。」

鳴り響く目覚ましを止めて、私は大きく伸びをした。ふう、と溜息をつく。溜息も漏れるわよ。何でも前の夢を今更見なきゃいけないの。枕元に置いてある一通の手紙が目に残る。あんな夢を見たのは、間違いなくコレのせいね。今日はまず彼氏に電話しなくちゃ。せっかくのクリスマスなのに一緒に出かけられなくなつたって伝えないといけないから。

「全く、クリスマスにお葬式なんてどうかしてるわ。」

それでも何より優先させて行くということにためらいはなかった。

あのとき、もし、あの人が私に別れを切り出した本当の理由を知っていたら私はどうしただろう。あのクリスマスに、仕事じゃなくて手術のために東京に来ていたと知っていたら私はどうしただろう。

今は関係ない、そんな話。私はもうあのときと違つて学生じゃない、社会人だし。しかも一流企業よ。毎日六本木に通うなんて、地元の子たちから憧れの的じゃない。素敵な彼氏もいる。何の不満もない。

仕事先に今日提出の書類だけ持つて行き、ついでに休む旨を伝えた。駅に向かって歩こうとすると、東京タワーが嫌でも目に入る。ぐさりと音がした気がした。あはは、東京タワーが心臓に突き刺さつたんじゃないの？あははは、ははははは。はは、は。・・・っ。

——どうしてあのとき別れを切り出すのではなく、私に病気のことを伝えてくれなかったのだろう。確かにあの病気は助かる見込みは限りなく低い。だけれども、どうして残された時間を私と一緒に過ごしてくれなかったのだろう。自分がいなくなつた後に私に送る手紙を書く時間があるなら、その時間の分、側にいて欲しかった。話して、笑つて、息づかいを感じていたかった。

駅の改札から出てきた女子高生が騒いでいた。

「クリスマスの東京タワーはね、8時になるとライトアップが消えるんだって。その瞬間を2人で見た恋人たちはね、永遠に幸せになれるんだって！」

私は彼女たちの隣を、足早に通り過ぎる。

やめといた方がいい。永遠に幸せになれるんじゃないなくて、

——永遠の別れが来るから。

1 サンタがやってきた 6位 3人

いっしょうけんめいなサンタさん。その活躍に対するプレゼント。

だんだん袋が軽くなって楽になるはずなのに「寂しい」なんて、しっかりサンタさんの気持ちに寄り添っているところが、こちよいです。

ほっこり暖かくなれる今週の表紙でした。

2 サンタクロース 1位 15組

調べた事実をきちんと踏まえた上で、それをサンタクロースの一人称に完全に溶かし込んだところが新境地。ホッホッホッと人柄まで感じられて楽しいマメ知識ゲットでした。広い世界には、いろんな人がいるもんです。

ラスト一行、もっとふんわり終わっても良かったのでは。でもまあ、知ってるぞという声もチラホラする逆風の中、急追する3を振り切って堂々の首位、**おめでとう!!**

イチオシフレーズ：「ホッホッホッ」

3 メリークリスマスと言わない国へ... 2位 13組

世界にはいろんな国がある——こちらは、より社会派。

ゼンマイと地雷の説明のくだりで遠い異国の苦境をぐっと身近に見せるあたり、ルポルタージュ顔負けのインパクトでした。

声高に平和演説をぶつのでなく、ピースバックという運動を通じて異国情勢をしみじみ感じさせる。華やかなクリスマスコラムが並ぶなかだから、いっそうこの作品の個性が光って見えたとように思います。

4 Another Christmas ~ 聖夜の格闘戦 ~ 5位 4人

どっごお~ん！ ルパン（三世のほうね）気分で読みました。夜空賊さんが、ぶじで良かった良かった。

イチオシフレーズ：「ヒューバーヨウルア」×2 「HOW HOW HOW」 で6とイチオシフレーズ大賞を分け合いました。**おめでとう！**

5 クリスマスランナー 4位 10人

走って走って、おつかれさま。わあ、いいことしたあ！ と達成感で戻ってきたら、駐車違反シールでしょぼーん。ハイテンションのまま終わるのでなく、ふっと現実に戻される、このラストがシュールですてきでした。

そうだね、萌え系赤ずきんがヒットしたって、現実が夢の続きじゃないもんね(何？)。

イチオシフレーズ：「駐車禁止」

6 ある人のぼやき 8位 0人

方言が、ぼやき口調にマッチして、いい味わいです。

どうでもえーやんと言いつつ、クリスマスをととてもとても気にしているようすが、ひし・ひし・ひしと伝わってきます。石川方言だったんですね。

イチオシフレーズ：「よかったじ」×2 「いいよ」で、4とイチオシフレーズ大賞を分け合いました。おめでとう！

7 『クリスマス』 8位 0人

そうでしたよね。クリスマスは冬至のお祭り。ていねいに描き込まれて安心して読めるのですが、ラストがややお説教っぽくなってしまったか。「今の私たちも感じるべき」なんて言わなくても通じるので、よりさりげなく終わりたい。

8 クリスマスの夜 6位 3人

たんたんとした語り口でアブナイ場面もさらりと通過。いやしかし、もう少しソフトな表現もあったでしょうに……。でもまあ、各賞総ナメの話題沸騰でした。おつかれさま。

イチオシフレーズ：「ごめんなさい」

9 四〇年後のプレゼント 3位 12組

出たなナンセンス・コラムニスト。

サンタシマズさん。40年後に幼心を思い出させてくれるなんて、いったいどんな秘密プロジェクトなんだろうー、なんていうジツマ合わせを気にしては、この(くまさんパンツの)世界は楽しめないのでしょうか、たぶん。

40年前のカメラを探してきたサンタさん、えらいえらい。お風邪の由、おだいじに。

10 聖夜 8位 0人

さいごは、しあわせなお話で。

聖夜にみどり子の誕生、きれいに重ねてハート・ウォーミン

グ。お誕生日、おめでとう。
 ちょっと気になったのは、ふつうにいいお話なのに、なぜアイツの死を予感させるような単語を敢えて散りばめて、読者をミスリードしたのかなあ、という戦略について。この場合、読者さんをダマすよりも、一緒に幸せをことほぎたいかな、と思ったのですが。

惜しい1 お悔やみ申し上げます

さくっと痛いところを付いてきます。いちどは書いてみたい
 な、と（たぶん）みんなが思うであろうツボにジャストミ
 ト。

惜しい2 赤鼻のトナカイ

黒かったベルの鼻が赤くなっちゃったわけは.....
 絵本さながらの、かわいらしいストーリー展開が、フォント
 や言葉づかいともきれいにリンクして、暖炉のそばで朗読した
 くなるような。

惜しい3 クリスマスは今年もやってくる

サンタのクリームダイビングという光景がユーモラスに見え
 て、少しだけやるせない気持ちもほどけてゆきます。
 でも、やっちゃいけないよね!? 箱揺らし。

惜しい4 それは、いつまでもそこに。

せつなさ全開。王道ホワイトラヴ。
 ライトダウン.....灯りが消える.....彼の命の火が消える。モ
 チーフのつなぎかたが、とても巧みで、東京の象徴である東京
 タワーが地方との対比で浮かび上がってきて。
 ただ、あれこれ盛り込みすぎてちょっと展開が忙しかったか
 も。

祝 今週の受賞作品

班名	賞タイトル	作品番号
9	どこの方言で賞	6
chRistmas	マッチョ120kgでも別にいいん で賞？	2
SAMURAI	違和感ありで賞	6
Tonakai	そのあと一週間は気まずいで賞	8
UNICEF	少年はこうやって大人になって いくので賞	8

(> <)	小学生で賞	7
タングステン	有名で賞	2
Mac OS X	難産で賞	1 0
プレゼントは ¥	弟の誕生日は11月頭で賞	8
Zeonic	それはないで賞	8